

# 地 理 歴 史

## 1 教育課程の編成

### (1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

地理歴史科の目標を達成するため、公民科などとの関連を図るとともに、地理歴史科を構成する科目として相互の関連を図ることの必要性があることから、以下に示す4点の指導上の留意事項を踏まえ、全体としてのまとまりを工夫した上で教育課程を編成することが大切である。

○ 「地理総合」及び「地理探究」では、取り扱う内容の「歴史的背景」を踏まえる	○ 「歴史総合」では、歴史に関わる諸事象の「地理的条件」と関連付ける
○ 「日本史探究」では、「地理的条件」や「世界の歴史」と関連付ける	○ 「世界史探究」では、「地理的条件」や「日本の歴史」と関連付ける

### (2) 各教科・各科目における標準単位数や履修における順序性等

#### ア 科目の構成等

科 目	標準単位数	履修の条件
地 理 総 合	2 単 位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必履修科目は「地理総合」「歴史総合」である。</li> <li>・ 「地理探究」は「地理総合」を履修した後に、「日本史探究」、「世界史探究」は「歴史総合」を履修した後に履修する。</li> </ul>
地 理 探 究	3 単 位	
歴 史 総 合	2 単 位	
日 本 史 探 究	3 単 位	
世 界 史 探 究	3 単 位	

#### イ 同一年次での履修等

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">年度の最初からの並行履修が不適切な例</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同一年次において年度の最初から、「地理総合」と「地理探究」、「歴史総合」と「日本史探究」、「世界史探究」を並行して履修するといった教育課程の編成は不適切である。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学期の区分等に応じて履修する際の留意点</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期の区分等に応じて、履修の順序性を遵守した上で、「地理総合」の履修後に「地理探究」を、「歴史総合」の履修後に「日本史探究」、「世界史探究」を同一年次で履修することは可能であるが、前提となる「地理総合」、「歴史総合」の履修を確実に確認するとともに、履修できなかった際の体制などを整える必要がある。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">内容の取扱いの不適切な例</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「歴史総合」の後に「日本史探究」又は「世界史探究」を履修する教育課程を編成した上で、「歴史総合」の時間に「日本史探究」又は「世界史探究」の古代等の内容を指導し、「日本史探究」又は「世界史探究」の近現代の内容を指導したことで、「歴史総合」を履修したこととするは認められない。</li> </ul>

#### ウ 標準単位数の増減

(7) 「地理総合」及び「歴史総合」は、原則として標準単位数を減じることはできない。

(イ) 「地理探究」、「日本史探究」及び「世界史探究」は、原則として標準単位数よりも単位を減じることにはできない。生徒の特性や学校の実態等に応じてやむをえない場合などには減じることができるが、履修に無理のないように単位数を定めること。

(ウ) 増単については、多様な生徒の実態等を考慮し、生徒の学習内容の習熟の程度などから判断して、時間をかけてその習熟を図るため特に必要がある場合には、単位数を増加させることができる。

### (3) 特色ある教育課程の編成

学校においては、生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、学校設定科目を設けることができる。地理歴史科において学校設定科目を設ける場合、地理歴史科の目標に基づき、関係する各科目の内容との整合性を図るなど、学校設定科目の内容の構成に十分配慮する必要がある。

また、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図ることを目的とした学校設定科目については、必修科目を履修する前に履修させるようにする必要がある。

## 2 指導計画の作成と内容の取扱い

### (1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

指導計画の作成に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが求められている。

その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る必要がある。

また、内容の取扱いに当たっては、次の4点に配慮する必要がある。

① 考察、構想したことを論理的に説明したり、議論したりするなどの言語活動を一層重視	② 調査や諸資料から様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視
③ 社会的事象については、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることのないよう留意	④ 情報の収集、処理や発表などの際に、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用

### (2) 単元の指導計画作成上の留意点

今回の改訂では、1回1回の授業で全ての学びを実現するのではなく、単元など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面やグループなどで対話する場面を設定し、全ての学びの実現を図ることが示されている。このことを踏まえ、以下に示す4点に留意して作成した「地理総合」及び「歴史総合」の単元の指導計画例を示す。

① 内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力を明確にしているか。	② 学校で育成を目指す資質・能力と単元の評価基準との関連を図っているか。
③ 「主題」や「問い」を中心とする学習活動を実現する指導となっているか。	④ 導入において単元全体の見通しを持たせ、単元末で「主体的に学習に取り組む態度」を育成することができるように工夫しているか。

科目名	単元名
地理総合	生活文化の多様性と国際理解

内容のまとめり  
 B 国際理解と国際協力  
 (1) 生活文化の多様性と国際理解

1 単元の目標

- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- ・世界の人々の特色ある生活文化に関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる。
- ・単元を貫く問いである「世界各地の生活文化は、それぞれどのように育まれてきたのだろうか」について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・世界の人々の生活文化の課題について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会を実現するために、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性を持つことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</li> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化に関する諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界各地の生活文化は、それぞれどのように育まれてきたのだろうか」について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の生活文化の課題について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会を実現するために、課題を主体的に解決しようとしている。</li> </ul>

学校教育目標(学校で育成を目指す資質・能力)との関係

知力	分析力	論理的思考力	自己管理能力
		発信力	計画力 行動力

各学校における教育課程は、当該学校の教育目標の実現を目指し、必要な教科・科目等を編成することが求められていることから、学校教育目標と教科指導の関係が明確になるよう表記を工夫すること。

3 指導と評価の計画 (17時間)

	各次の主題等	学習活動	知	技	思	態	評価の場面・留意事項
	事前調査	・生活文化の多様性に関する事前認識調査					
未習段階での生徒の認識度を把握し、指導の参考とすることを目的とするアンケートを実施する。							
単元の導入 (1時間扱) 1時間目	【主題学習】 世界各地の 衣食住	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く問いの設定</li> <li>【単元を貫く問い】 世界各地の生活文化は、それぞれどのように育まれてきたのだろうか</li> <li>・世界各地の生活文化に関する諸資料から情報収集</li> </ul>				○	【態】単元学習シート
第1次 (6時間扱) 2～7 時間目	【学習内容】 (地球規模の自然システム) 生活文化と 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>【問い】様々な地形はそれぞれどのように作られるのだろうか</li> <li>・大地形の種類と成因の理解</li> <li>・小地形の種類と成因の理解</li> </ul>				○	【知】定期考査
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形と人間生活の関係に関する諸資料の分析</li> </ul>				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を構成する項目ごとに重点を置く観点を設定し、評価の重点化を図る。</li> <li>・単元全体を通してバランスよく三観点の評価場面を設定する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>【問い】気候の違いはなぜ生まれるのだろうか</li> <li>・等温線図による気候因子の理解</li> <li>・大気、海洋の大循環に関する諸資料の分析</li> <li>・その他のメカニズム(気圧帯の移動、乾燥要因等)の理解</li> </ul>			○	【思】ワークシート 定期考査	
生徒が「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせ、それを鍛えるためには、適切な「主題」や「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動の実施が必要。							【学びの重点化】 グループワークに重点を置くため、気候因子に関する動画(道教委Online学習サポートサイト)を家庭で視聴

各次の主題等		学習活動	知	技	思	態	評価の場面・留意事項
		<p><b>【問い】自然環境は人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諸資料から情報を読み取り、疑問点から問いを表現</li> <li>ケッペンの気候区分の理解</li> <li>前時に立てた問いの解を作成</li> <li>解をグループで抽象化し、全体発表</li> </ul>				○	【態】 ワークシート
							<p><b>【学びの重点化】</b>  <b>問いの表現に重点を置くため、ケッペンの気候区分に関する動画(道教委 Online学習サポートサイト)を家庭で視聴</b></p>
第2次 (2時間版) 8～9 時間目	(地球規模の社会・経済システム) 生活文化と 社会環境	<p><b>【問い】自然環境が類似している地域は生活文化も類似するということなのだろうか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語、宗教、民族分布の理解</li> <li>宗教等の社会環境と生活文化の関係に関する諸資料の分析</li> </ul>	○				【思】 ワークシート 定期考査 【知】 定期考査
第3次 (1時間版) 10時間目	(地球規模の社会・経済システム) 地理的環境の 変化による生 活文化の変容	<p><b>【問い】人々の生活文化は何に影響を受け、どのように変容するのだろうか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化の変容に関する諸資料(中国・インド)の分析</li> </ul>				○	【思】 ワークシート 定期考査
第4次 (2時間版) 11～12 時間目	【事例地域】 熱帯の生活 ～インドネシ アとブラジル の比較	<p><b>【問い】インドネシアとブラジルの共通点と相違点は何だろうか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候、宗教、旧宗主国や生活文化の特徴等における共通点と相違点について考察し、レポートを作成</li> <li>レポート発表</li> <li>単元学習シートで振り返り</li> </ul>				○	【思】 ワークシート 定期考査 【思】 レポート 【態】 単元学習シート
		<p>人々の生活文化は多様な地理的環境と相互に影響し合って多様性をもつことと、地理的環境の変化によって生活文化も変容することができる、特色ある事例を選んで設定する。</p>					<p><b>「単元を貫く問い」について、授業で学習した内容を踏まえ、世界各地の文化が育まれた要因について、単元学習シートに答えを表現</b></p>
							<p>単元を貫く問いの答えを考えることで、単元の学習内容を振り返る。</p>
第5次 (2時間版) 13～14 時間目	【主題学習】 生活文化が 与える環境へ の影響	<p><b>【新たな問い①】</b> 生活文化が自然環境に影響を与えることもあるのではないだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>熱帯林の減少を地図上で表現</li> <li>インドネシアとブラジルにおける熱帯林の減少の要因を地域による違いを比較しながら考察</li> </ul>	○				【技】 GISによる 作図資料 【ICTの活用】大項目A(1)で習得した地理的技能を活用する場面の設定が大切であり、ここでは統計地図を作成する。
第6次 (3時間版) 15～17 時間目	【主題学習】 自他の文化の 尊重	<p><b>【新たな問い②】</b> 生活文化の多様性はどのような摩擦を生んだのだろうか また、私たちはそれをどのように乗り越えるべきなのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様性により摩擦が生じた事例の選定</li> <li>関係資料の収集、ポスターの作成</li> <li>ポスターの作成</li> <li>共存に向けた新しい関係や新たな社会の在り方の提言</li> <li>提言発表(ポスターセッション)</li> </ul>	○				<p><b>【新たな問い】</b> ここに示したものは例示であり、課題を追究、解決する活動の中で、生徒自身が新たな問いを見出したりするなどして、主体的・対話的で深い学びの充実を図ることが大切である。</p> <p>・単元の終わりには、自他の文化を地理的環境を踏まえて捉え、尊重することの重要性に気付くようにすることが大切。          ・そのため、多様な習慣や価値観をもつ人々との相違を認めた上で、共存するための新しい関係や新たな社会の在り方を創造する場面を設定する。</p>
	事後調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化の多様性に関する事後認識調査</li> </ul>				○	【思・態】 ポスター
<p>単元終了後に生徒の認識の変容を把握し、授業改善に用いることを目的とするアンケートを実施する。</p>							



科目名	単元名
歴史総合	経済危機と第二次世界大戦

内容のまとめり

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち  
(3) 経済危機と第二次世界大戦

### 1 単元の目標

- 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。
- 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。
- 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- 経済危機と第二次世界大戦について、「よりよい社会の実現」を視野に入れ、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。</li> <li>第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済危機と第二次世界大戦について、「よりよい社会の実現」を視野に入れ、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>
<b>学校教育目標(学校で育成を目指す資質・能力)との関係</b>		
知力	論理的思考力	発信力
創造力		
行動力		
各学校における教育課程は、当該学校の教育目標の実現を目指し、必要な教科・科目等を編成することが求められていることから、学校教育目標と教科指導の関連が明確になるよう表記を工夫すること。		

### 3 指導と評価の計画 (14時間)

※「問い」について、①は「諸事象の推移や展開を考察するための問い」を、②は「諸事象を比較し関連付けて考察するための問い」を指す。  
②の「問い」の答えは各次のまとめとして個人で考察し、単元学習シートに記入する。

各次の内容	学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
第1次 (1時間版) 1時間目 小項目(ア)の導入 小項目とは、事項ア(「知識及び技能」と事項イ「思考力、判断力、表現力等」)の学習のまとめりのこと。ア(ア)とイ(イ)が対応している。	<b>小項目(ア)の主題:国際協調体制の動揺から戦争の時代へ</b> <b>【小項目(ア)を貫く問い】</b> <b>第一次世界大戦後に国際協調体制が成立したにもかかわらず、なぜ第二次世界大戦が勃発したのだろうか</b> ・小項目(ア)全体に関する諸資料を読み取り、小項目全体に関する問いを共有する。				小項目(ア)の学習内容に見通しを持たせるため、「小項目全体に関する問い」を設定し、自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぶようにする。 【態】単元学習シート
第2次 (1時間版) 2時間目 小項目(ア)世界恐慌	<b>【問い】①世界恐慌は人々の生活をどのように変えたのだろうか、各国はどのように対応したのだろうか</b> ・諸資料から世界恐慌の影響を読み取り、各国の対応を調べ、相互に発表する。				学習上の課題とするための問いを設定し、近現代の歴史の理解を深める学習となるよう工夫する。 【知】定期考査 【思】ワークシート
第3次 (1時間版) 3時間目 小項目(ア)ファシズムの伸張	<b>【問い】①ドイツやイタリアの国民はなぜファシズムを支持したのだろうか、ファシズムに対して国際組織などはどのように対応したのだろうか</b> ・第2次で整理した情報を活用し、考察する。 <b>【問い】②あなたは、全体主義国家と現代の国家を比較したとき、その共通点と相違点のうち、何が重要だと考えるか、それはなぜか</b>				【思】ワークシート ・単元を構成する項目ごとに重点を置く観点を設定し、評価の重点化を図る。 ・単元全体を通してバランスよく三観点の評価場面を設定する。

	各次の内容	学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
第4次 (2時間) 4時間目	小項目(ア) 日本の対外政策	<p>【問い】①日本はどのようにして大陸へ進出し、なぜ対外進出の道を選んだのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諸資料を読み取り、「政治」、「経済」、「外交」、「生活」など多角的な視点から背景や原因について考察し、仮説を立てて相互に発表する。</li> </ul> <p>【問い】②あなたは、日本と中国の長期にわたる戦争は、どのような選択をすれば回避できたと考えるか</p>				<p>【学びの重点化】対話的な学びに重点を置くために、ジグソー法で考察し、考えを深める活動を行う。</p> <p>言語活動の充実を図るため、調査した結果などを発表する活動を行うことが大切である。</p>
第5次 (1時間) 5時間目	小項目(ア)のまとめ	<p>「小項目(ア)を貫く問い」について家庭学習で作成したレポートを踏まえ、第二次世界大戦勃発の要因についてグループでまとめて発表</p>				<p>【学びの重点化】考察した結果について発表する活動に重点を置くため、家庭学習でレポートを作成する。</p>
第6次 (1時間) 6時間目	小項目(イ)の導入  小項目とは、事項ア(「知識及び技能」と事項イ「思考力、判断力、表現力等」)の学習のまとまりのこと。ア(イ)とイ(イ)が対応している。	<p>小項目(イ)の主題:第二次世界大戦から国際平和秩序の構築へ</p> <p>【小項目(イ)を貫く問い】二度の大戦を経た人類は、どのような社会を目指したのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小項目(イ)に関する諸資料を読み取り、小項目全体に関する問いを共有する。</li> </ul>				<p>小項目(イ)の学習内容に見通しを持たせるため、「小項目全体に関する問い」を設定し、自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぶようにする。</p>
第7次 (2時間) 7、8時間目	小項目(イ) 第二次世界大戦の展開	<p>【問い】①第二次世界大戦は、どのような性格を持つ戦争だったのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諸資料から戦争の特徴を読み取り、第二次世界大戦の性格について仮説を立て、大戦後の国際社会の展開に見通しを持つ。</li> </ul> <p>【問い】②あなたは、第二次世界大戦の戦禍は人類にどのような考えをもたらしたと考えるか</p>				<p>【ICTの活用】より説得力のある仮説を立てるために、教科書や資料集に掲載されていない、地方都市の被害などの情報を収集する場面を設定する。</p>
第8次 (1時間) 9時間目	小項目(イ) 国際連合と国際経済体制	<p>【問い】①国際連合はどのように国際平和を構築しようとしたのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際連盟と比較しながら、諸資料から国際連合の機構を理解し、相互に発表する。</li> </ul> <p>【問い】②あなたは、国際秩序が形成されたことは、現代の社会にどのような影響をもたらしたと考えるか</p>				<p>【知】定期考査</p> <p>【思】ワークシート</p>
第9次 (1時間) 10時間目	小項目(イ) 冷戦の始まりとアジア諸国の動向	<p>【問い】①第二次世界大戦後、国際社会ではどのような対立が表面化したのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦の展開、アジア各地の独立運動について、諸資料を活用して考察する。</li> </ul> <p>【問い】②あなたは、第二次世界大戦後、旧宗主国が簡単に植民地の独立を認めなかったことは、その後の社会にどのような影響をもたらしたと考えるか</p>				<p>【思】ワークシート</p> <p>生徒が資料を活用して事象を多面的・多角的に考察する学習を繰り返す場面を設定し、資料の活用に関わる技能の定着を図りつつ、確かな理解に至るようにする。</p>
第10次 (1時間) 11時間目	小項目(イ) 戦後改革と日本国憲法の制定	<p>【問い】①日本国憲法の制定などの日本の戦後改革は、日本の社会の何を換え、何を換えなかったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦前の日本社会と比較しながら、諸資料から戦後の日本社会の特徴を理解し、相互に発表する。</li> </ul> <p>【問い】②日本国憲法の制定などの日本の戦後改革を理解することは、あなたにとってどのような意味があると考えますか</p>				<p>【思】ワークシート</p> <p>「問い」について考察した結果を表現する際に、資料や既習の知識を活用しつつ、概念的な知識が獲得されるようにする。</p>
第11次 (1時間) 12時間目	小項目(イ) 平和条約と日本の独立の回復	<p>【問い】①連合国による日本の占領政策は、どのような国際的な背景のもとに行われ、なぜ転換したのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東西の緊張の高まりに関する説明から、考察する。</li> </ul> <p>【問い】②あなたは、連合国による日本の占領政策が転換した要因として、最も重要な要因は何だと考えるか</p>				<p>【知】定期考査</p> <p>【思】ワークシート</p>
第12次 (1時間) 13時間目	小項目(イ)のまとめ	<p>「小項目(イ)を貫く問い」について家庭学習で作成したレポートを踏まえ、第二次世界大戦後の国際秩序などについて、グループでまとめて発表</p>				<p>【学びの重点化】考察した結果について発表する活動に重点を置くため、家庭学習でレポートを作成する。</p>

### 3 主体的・対話的で深い学びの実践例

新学習指導要領に定められた内容を踏まえ、効果的な指導を行うために、学習活動の重点の置き方に工夫をした、「地理A」及び「日本史B」の実践例を示す。

#### (1) 「地理A」の実践事例

##### ◆ 単元の指導計画、学習指導案等

単元名	自然環境と私たちの暮らし (全7時間)			
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が自然環境から影響を受け、多様性を持つことについて考察し、理解する。</li> <li>世界の人々の生活文化について、問いを見いだしたり仮説を立てたりするなどし、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</li> </ul>			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 (国立教育政策研究所) 参照のこと			
次程	学習内容と問い (または評価規準等)			評価の観点
				関 思 技 知
第1次 (2時間扱)	<b>【学習内容】</b> 様々な地形の成因について理解する。 <b>【問い】</b> 様々な地形はそれぞれどのように作られるのだろうか。			○
第3次 (2時間扱)	<b>【学習内容】</b> 気候がどのように決定付けられるのかを考察する。 <b>【問い】</b> 気候の違いはなぜ生まれるのだろうか。			○
第4次【本時】 (2時間扱)	<b>【学習内容】</b> 気候等の自然環境が人々の生活文化に与える影響を追究する。 <b>【問い】</b> 世界各地の生活様式に違いが見られるのはなぜだろうか。			○ ○

#### 第3次 (1時間目：気候要素と気候因子) における学びの重点化による改善

学びの重点化前		学びの重点化後	
活動場所	学習活動	活動場所	学習活動
教室	<b>授業者主導 (30分)</b> ① 気候要素についての説明を聞き、気候は降水量や気温などで表されることを理解する。 ② 気候因子についての説明を聞き、気候は海流、標高、隔海度等の影響を受けていることを理解する。	家庭  教室	<b>学習者主導 (30分)</b> 動画を視聴し、気候要素と気候因子の意味を理解した上で、気候因子を捉えることができる特徴的な場所を考察し、ワークシートに記入する。
	<b>学習者主導 (15分)</b> ③ ワークシートを使い、気候因子を捉えられることができる特徴的な場所に、それぞれの気候因子を記入する。		<b>授業者主導 (5分)</b> ① 動画の内容を簡単に振り返り、グループワークの進め方について説明を聞く。
			<b>学習者主導 (30分)</b> ② 気候因子について家庭で考察した結果を、グループ内で発表する。 ③ 「気候の違いはなぜ生じるのだろうか」という問いの答えをグループで作成し、全体発表する。
	④ まとめ (5分)		<b>授業者主導 (15分)</b> 補足説明が必要と思われる事項 (隔海度等) について解説する。

「北海道教育委員会 Online学習サポートサイトの活用」

気候因子がどこで、どのように働いているかを話し合わせる学習活動に重点を置くため、個人でできる資料分析については、Online学習サポートサイトを活用する。

ベーシックモデル (地理)  
気候  
気候要素と気候因子

動画がアップされています!

「学びの重点化を図った効果的な学習指導」

【学びの重点化前】  
・個人作業のみで完結する学習活動

↓

【学びの重点化後】  
・個人で考察した内容について意見交換  
・「気候の違いはなぜ生まれるのか」という問いの答えを話し合う

◆授業者主導の時間を10分短縮することで、このような授業改善ができました!

「ここは理解が難しいかな」と事前に予想できる事項に焦点化した補足説明も可能になります。

◆ 1 単位時間（第4次）の指導と評価の計画（例）

1 本時の目標			
(1) 多様な生活様式に着目し、問いを見いだしたり仮説を考えようとする。			
(2) 多様な生活様式を、その地域に分布する気候から考察し理解を深める。			
2 本時の展開（全7時間予定の6、7時間目）			
過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
6 時間目 導入 30分	【問い作り】 問いの表現	・提示した写真等の資料を、グループ内で分担し資料を分析する。 ・分析した結果から、個人で疑問点を問いの形で表現する。 ・現段階での問いの答えを予想し、個人で仮説を立てる。	・問い作りのルールを確認し、生徒の疑問を引き出せるように、グループワークを支援する。
展開 20分	各気候区の特徴	【ワークシートの作成】 ・Online動画を活用した事前学習をもとに教科書等を用いて、プリント学習に取り組む。	・適宜、周囲と相談し、学習を進める。
7 時間目 展開 20分	各気候区の特徴	【ワークシートの確認】 ・説明を聞き、ワークシートの内容を整理する。	・適宜、ペアワークを取り入れ、アウトプットする場面を設定する。
まとめ 30分	【問いの答え】	・習得したことをもとに、個人で設定した問いの答えを論述する。 ・グループで、各自が作成した問いの答えを集め、それらを抽象化し、「学びで得た概念」としてまとめる。 ・全体発表し、クラス全員で共有する。	・問いの答えの作成にスムーズに取り組みない生徒には個別に支援するために、高床式にしている。 ・まとめた概念は各自の答えが包括されたものとなるように意識させる。
新たな問いの提示	「同じ気候の場所は同じ生活様式になるのだろうか」		

「学びの重点化を図った効果的な学習指導」  
事前学習として、動画を準備し、授業前に家庭で予習する。

↓

問いを見いだす活動や、個人の答えをグループで話し合い、まとめていく活動に重点を置くことを見通した授業の計画としている。

※家庭で動画を視聴できる環境が整っていない生徒には、学校で視聴できるよう配慮する。

生徒が問いを作ることで、その答えを見つけようと主体的に粘り強く学習活動を行うことが期待される。

【問い作り】のルール

- ①まずは個人で、できるだけたくさんの問いを作る。
- ②次にグループで、一人ひとりが考えた問いを発表する。その際、問いについて話し合ったり、評価したり、答えたりしない。
- ③グループで出合った問いの中から、自分の興味・関心があるものを3つ選ぶ。
- ④答えが一言とならず、説明を要する問いの形（リサーチ・クエスチョン）になるよう整える。

個人で設定した問いの答えを7時間目の学習を通して作成し、それをグループごとに持ち寄る。各グループで一人ひとりの答えを共有し、そこから抽象化した概念を生み出すことで、より深い理解につながる学びとなることが期待される。

**注目!**

「まとめ」の場面に  
おける問いの答えの抽象化  
イメージ（例）

「気候が生活様式に与える影響」に関する資料を分析し、一人ひとりが問いを作り…

生徒A（シベリアの家屋を見て）  
地面からの寒さの影響を受けないように、高床式にしている。

生徒B（熱帯地域の家屋を見て）  
風通しをよくして暑さをやわらげるために、高床式にしている。

一人ひとりの問いの答え

生徒C（日本の家屋を見て）  
夏の湿度対策として、風通しをよくしている。

生徒D（地中海沿岸の家屋を見て）  
日本と比べると湿度が低いから、石造りとなっている。

個別化されている一人ひとりの問いの答えを抽象化し…

**世界の家屋の形は  
気候の影響を受けている!**

抽象化して表現したものを「学びで得た概念」とする

(2) 「日本史B」の実践事例

◆ 単元の指導計画

単元名	第二次世界大戦と日本（全10時間）			
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦との関わりについて考察し、表現する。また、第二次世界大戦が世界の諸国家・諸民族に未曾有の惨禍をもたらしたことを理解する。</li> <li>・平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚する。</li> </ul>			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			
次程	学習内容と問い（または評価規準等）			評価の観点
	【単元を貫く問い】 どうしたら戦争を防ぐことができたのだろうか。			関 思 技 知
第1次 (1時間扱)	<p>【学習内容】 満州事変の原因・経過・結果について理解する。</p> <p>【問い】 国民は満州事変をどのように捉え、なぜその発生を止められなかったのだろうか。</p>			○
第2次 (1時間扱)	<p>【学習内容】 政党内閣の崩壊と国際連盟脱退について考察する。</p> <p>【問い】 なぜ、政党内閣は崩壊し、日本は国際的に孤立する道を選択したのだろうか。</p>			○
第6次 (2時間扱)	<p>【学習内容】 太平洋戦争の原因・経過・結果について理解する。</p> <p>【問い】 太平洋戦争はどのように推移し、国民生活はどのように変化したのだろうか。</p>			○
第7次【本時】 (1時間扱)	<p>【学習内容】 「どうしたら戦争を防ぐことができたのか」という視点で振り返る。</p> <p>【問い】 どうしたら戦争を防ぐことができたのだろうか。</p>			○ ○



◆ 学びの重点化を図った効果的な学習指導について (例)

第6次 (9時間目: 敗戦と戦時下の文化と生活) における改善

学びの重点化前		学びの重点化後	
活動場所	学習活動	活動場所	学習活動
教室	<b>授業者主導 (40分)</b> ① 教科書を音読する。 ② 沖縄戦から敗戦に至る推移の説明を聞き、理解する。 ③ 説明事項をプリントに穴埋めする。 ④ 戦時下の文化と生活についての説明を聞き、理解する。 ⑤ 説明事項をプリントに穴埋めする。	家庭	<b>学習者主導 (20分)</b> 動画を視聴し、敗戦に至る太平洋戦争の推移について理解し、戦争の展開についてワークシートに記入する。
	<b>学習者主導 (5分)</b> ⑥ 連合国が行った会談の場所と出席者について、資料集等を用いてワークシートに整理する。	教室	<b>授業者主導 (10分)</b> ① 事前学習に係る小テストを実施し、生徒同士で教科書等を用いて答え合わせをする。
	⑦ まとめ (5分)		<b>学習者主導 (30分)</b> ② 戦時下の生活についての資料から気付いたこと、疑問に感じたことを問いの形で表現する。 ③ グループ内で交流し、問いを包括し、新たな問いを作る。
			<b>授業者主導 (10分)</b> ④ 戦争の被害や学徒出陣等について解説する。

「NHK高校講座の活用」  
 戦時下の生活について理解を深める学習活動に重点を置くため、その背景となる戦争の推移については、事前に配付したワークシート等で整理する。  
 NHK高校講座 日本史  
**太平洋戦争**

「学びの重点化を図った効果的な学習指導」  
**【学びの重点化前】**  
 ・授業者による説明と解説で完結する学習活動  
 ↓  
**【学びの重点化後】**  
 ・小テストで家庭での学びの定着を確認  
 ・個人で資料を読み取り、疑問に感じたことを問いの形にして意見交換  
 ・戦時下の生活についての多面的、多角的な理解  
 ◆授業者主導の時間を20分短縮することで、このように授業改善ができました!

次回の授業(まとめ)を見通した解説を聞いている様子や、グループでの交流の状況を見て、必要があればまとめの部分で補足説明する。

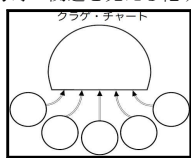
◆ 1単位時間 (第7次) の指導と評価の計画 (例)

1 本時の目標

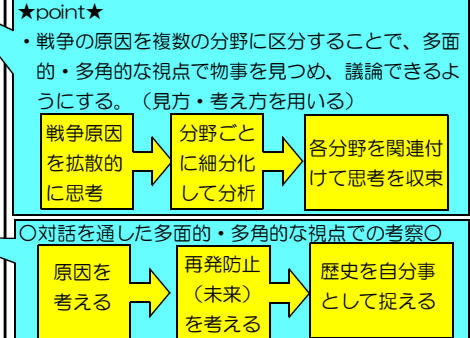
(1) 日本が「どうしたら戦争を防ぐことができたのだろうか」という視点で学習内容を振り返り、日本が戦争を繰り返さないために必要な取組を考察する。

(2) 平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性を自覚する。

2 本時の展開 (全10時間予定の10時間目)

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 3分	<b>【問い】 どうしたら戦争を防ぐことができたのだろうか。</b> ・提示された「問い」を把握し、本時のねらいを確認する ・ディスカッションのグループ分け (5人程度)	・歴史を自分事として捉えられるよう、授業 (単元) 終了時のゴールイメージを具体的に提示
展開 44分	<b>【グループ協議】 (10分)</b> ・各自が持ち寄ったデータや諸資料をもとに、問いに対して構想した仮説をグループ内で発表をする。 ・それぞれの論を「政治」、「経済」、「外交」、「思想・教育」、「国際情勢」の5分野に区分し、それぞれの分野の担当を決める。 <b>【ジグソー活動】 (12分)</b> ・担当ごとに集まり、各グループで出された意見を出し合い、自分のグループでは出されなかった戦争に発展した原因を発見する。 <b>【クロストーク】 (12分)</b> ・元のグループに戻り、ジグソー活動で得た新たな情報を踏まえて、5分野全てを関連付ける。 <b>【新たな問い】 日本が戦争を繰り返さないためにはどのような取組が必要か。</b> <b>【新たな問い】 戦争を繰り返さないために、私たちにできることは何か。</b> <b>【発表】 (10分)</b> ・「どうしたら戦争を防ぐことができたのだろうか」について、最適解をホワイトボードシートにまとめ、グループごとに発表する。	・発表の際には、「時代の分岐点」を踏まえるようにする。 ・「クラゲチャート」を用いて、5分野の関連を見える化する。  ・「問い」を考える中で生じた「新たな問い」についても触れるよう促す。
まとめ 3分	・ワークシートを用いて振り返りを行う。	・「歴史的な見方・考え方」の認識について振り返ることができるようになる。

★学びの重点化を図った効果的な学習指導★  
 授業時間に、ディスカッションを通じて、思考力・判断力・表現力を育むことを重視  
 ↓  
 時間を十分に確保するため、ディスカッションの内容と議論のテーマを予告 (ワークシートの配付)  
 ↓  
 ★ICT等の活用★  
 生徒は、ワークシートを活用して単元を振り返り、授業中に疑問に思ったことなどをインターネットなどを利用してまとめる。また、ディスカッションに活用できそうなデータや諸資料なども各自で収集・整理し、テーマに沿った自分の論を構築する。



○主体的・対話的で深い学び○

・単元のまとめとなるこの時間では、「関心・意欲・態度」(新学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」)を評価する。

・そのため、自分の考えを他者の考えと比較したり、関連付けたりすることで、単元や授業の最初と最後で自己の思考の変容について自己認識できるようにする。

# Topic

## 地域の公共施設の活用～ウポポイ（民族共生象徴空間）の活用例～

地理歴史科では、新学習指導要領において、情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにすることが求められている。



【国立アイヌ民族博物館の外観】

令和2年（2020年）7月に開業したウポポイ（民族共生象徴空間）は、「国立アイヌ民族博物館」「国立民族共生公園」「慰霊施設」などから構成される国立施設であり、アイヌの歴史や文化などに関する学習機会が提供されている。



【国立民族共生公園に再現されたチセ】

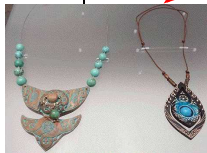
ここでは、新学習指導要領を踏まえた、ウポポイ（民族共生象徴空間）を活用した「歴史総合」での取組例を示す。

### ウポポイ（民族共生象徴空間）を活用した「歴史総合」の取組例




科目「歴史総合」の内容の「B 近代化と私たち」の「(2) 結び付く世界と日本の開国」のAについては、アジア貿易における琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて触れることとし、その際、琉球やアイヌの文化にも触れることとしている。

◆単元名：「B 近代化と私たち」（「(2) 結び付く世界と日本の開国」）

◆本単元における小項目(ア)の指導と評価の計画

次程	各次の内容	学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
第1次	・小項目(ア)の導入	<p>【小項目(ア)全体に関する問い】 18世紀の東アジアの国際秩序はどのように特徴付けられ、どのような貿易が行われていたのだろうか</p>				遺跡・遺構や文書、画像などだけでなく、口述記録（オーラルヒストリー）も過去を知る手がかりとなる歴史資料であることを指導する。
第3次	・アジア各地域間の貿易 	<p>アイヌの人々は、どのような人々と、どのような交易活動を行っていたのだろうか</p> <p>あなたは、周囲との交易を通じてアイヌの人々の生活や文化の何が変わり、何が変わらなかったと考えるか</p> <p>・「問い」について、ウポポイ（民族共生象徴空間）の施設や展示から情報を収集し、考察した結果をワークシートに記入</p>				<p>インターネットを活用して様々な情報を収集する際には、資料の表題、出典などを確認し、その信頼性を確かめるよう指導する。</p> <p>ウポポイでは、事前、事後を含めた単元全体の授業をサポートする体制を整えており、施設の学習資源を活かした授業を展開するために、相談することが可能である。</p>
第4次						

また、「歴史総合」以外にも、以下の教科等で学習する際の活用が考えられる。

地理探究	公共	家庭総合	総合的な探究の時間
地理総合における「生活文化の多様性と国際理解」を踏まえ、世界の民族問題に係る主題を設定し、民族問題の空間的な規則性や傾向性に着目して解決の方向性を追究し、理解する学習を行う。その際、アイヌ民族と世界の諸民族を比較するためにウポポイを活用し、歴史的背景を踏まえて、アイヌ民族の生活文化の特徴を地理的環境との関わりなどから捉える学習を行う。	人間の尊厳と平等、民主主義、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解するため、幸福、正義、公正などに着目して、アイヌ民族に係る課題を設定して追究する活動を行う。	「衣」では、アイヌのアットゥシなどを取り上げ、各地に伝わる伝統的な衣文化を題材に学んだり、「食」では、郷土食などを通して地域の食文化の特徴を理解したり、「住」では、気候等に応じた各地域の家づくりなどの特徴や変遷など、アイヌの生活文化について学習する。  	SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」について、「誰一人取り残さない社会を実現するためには何が必要か」という探究課題を設定し、探究する。 

【参考】ウポポイ（民族共生象徴空間）のウェブサイト(<https://ainu-upopoy.jp/>)